

中部農業改良普及センター
(中部農林振興局)

キイチゴ ‘ベビーハンス’ の 産地育成への取組

～ ‘ベビーハンス’ の高品質・安定生産技術の開発 ～

1 活動のねらい

キイチゴ ‘ベビーハンス’ は、露地栽培が可能な切り花の中で、葉物花材として注目され、市場性が高い品目の一つです。県では、平成25年度より本品目の産地化に取り組み、5年後の目標栽培面積10ヘクタール、年間取扱数量300万本、年間販売金額1.5億円を目指して生産振興を行っています。中部地域では、夏場の換金品目として「トルコギキョウ」、「デルフィニウム」および露地野菜生産者を中心に、いち早く本品目の導入に取り組み、平成27年度の栽培面積は458アールと県内最大の産地となっています。

県内での栽培事例が少ない中での取り組みは、排水不良ほ場への植栽による生育不良や、晩霜被害、病害虫の発生による切り枝品質の低下など栽培技術上の課題が多くあります。

そこで、JA宮崎中央キイチゴ研究会を重点対象集団として捉え、高品質・安定生産技術の実証や、本産地にしかできない商品形態の提案など積極的な普及活動を展開しました。

2 活動の経過又は普及の関わり

平成26年3月に設立されたJA宮崎中央キイチゴ研究会の生産者19戸を対象に、次の活動を進めました。

(1) 新芽の萌芽時期や剪定時期、出荷時期を中心に現地検討会や目揃え会を開催した。これらの研修会には、市場や小売店の担当者を交え、栽培研修や市場からの評価、小売店からの意見について検討しました（写真1）。

(2) 生育不良のほ場で、土壌や排水、根圏の発達状況の調査を実施、そのほ場での栽培に適した土壌改良や施肥量の改善を行い、収穫量の増加に取り組みました。



写真1 現地検討会の様子

(3) 切り枝品質の低下や出荷量減少の原因となっている害虫対策として、フェロモン剤を利用した害虫防除体系の確立を目指して展示ほを設置し、省力的害虫防除対策として現地への普及を図りました（写真2、図1）。

(4) ‘ベビーハンス’ は季節ごとに様々な商品の可能性を秘めているため、小売店や市場との意見交換、展示会での商品PRに取り組みました。

3 活動の成果

(1) 栽植後の肥培管理や剪定方法を徹底することにより、高品質な切り枝生産が行われ、県内最大規模の産地として、市場からの評価を高めることが出来ました。



写真2 フェロモン剤による防除

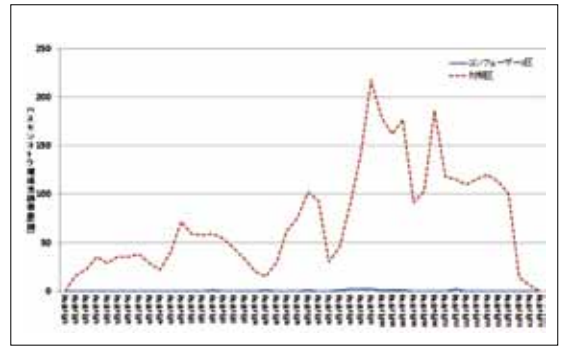


図1 「展示ほの設置」状況 展示ほにおけるハスモンヨトウの発消長

(2) 夏場の害虫防除対策として、防除体系にフェロモン剤の利用を組み込むことにより、適期防除や省力的な防除が可能となりました。

(3) 排水不良で定植後より生育不良が発生していたほ場は、明渠の設置や施肥の改善等の取組を実施することにより、生育が順調に回復し収量が増加しました。

(4) 市場・小売店との意見交換の実施により、新たな切り枝形態「フロストブラウン」の商品規格を生み出しました（写真3）。

(5) 出荷数量、販売金額ともに順調に増加し、2015年の販売金額は、1千万円を超え、今後の更なる発展が期待されます（表1）。

これらの活動の結果、新規品目である‘ベビーハンス’の栽培技術が実証され、研究会全体の出荷目標に対する意識の向上や県内での先進産地としての役割を果たすことが出来ました。

4 今後の方向

‘ベビーハンス’は、県内に導入されて3年目の品目であるため、栽培技術の実証と安定した生産に向けて取り組んできました。今後、消費地が求める時期に安定した量を生産していくためには、晩霜対策や長雨対策など気象条件に左右されない栽培技術を確立し、更なる産地の発展に向けた支援を行うこととしています。



写真3 新たな切り枝形態「フロストブラウン」

表1 栽培面積と出荷数量および販売金額の推移

年	栽培面積(a)	出荷数量(本)	販売金額(円)
2014	388	106,920	6,654,755
2015	458	216,800	10,984,359

5 対象集団又は対象農家の声

新規品目‘ベビーハンス’を栽培するに当たって、栽培方法など色々な不安がありましたが、室内研修や現地での検討会等を通じて、基本的な栽培技術を習得することが出来ました。今後は、目標とする収量を達成し、高品質な‘ベビーハンス’生産に取り組んでいきたいです。